

六田晴洋の

私たちの ご近所さん



VOL. 42 白糠でアメマスを探す

「白糠は以前、アメマスの聖地だった」。移住してから何度この話を耳にしたでしょうか。

十年ほど前まで、白糠の川にはサケの仲間のアメマスが海から多く遡上し、釣り人で賑わっていたそうです。しかし、近年は当時のように多くのアメマスが見られなくなりました。理由はわかりません。ただ、かつての川や、そこを泳ぐアメマスたちはどんな様子だったのだろうと、その話を聞くたびに思いを

馳せていました。

自然は常に変わっていくもの。今の姿もいずれ過去になります。だからこそ、それを記録しておくことも大事なはず。「今の白糠でアメマスを探してみよう」。そう思い立ち、この秋、川へ通うことにしました。

「アメマスの生活史」

アメマスはサケの仲間ですが、サケとは少し違う生活をします。アメマスには、海へ行かず川で一生を過ごすタイプと、サケのように海へ下って大きく成長するタイプがあります。今回探しているのは、そんな大型のアメマスです。

「川の淵」

まず見て回ったのは、川の淵（ふち）です。川の曲がり角や、倒木が沈んでいる所など、流れが大きく変わる場所は、川底が削られて深くなる場合があります。周囲は足のすねほどの深さなのに、そこだけズドンと深くなっている場所、それが淵です。深い淵は、多くの魚にとって

休息場所や隠れ家になります。アメマスもきっといるはず。

数日かけて、いくつもの淵を覗きました。絶えず砂が巻き上がる水中に目を凝らすと、ひととき大きな魚が見えました。アメマスです。こうして数匹のアメマスに出会えました。たしかに多くはないようです。しかし、聖地と呼ばれた時代が過ぎても、彼らの暮らしは静かに続いています。

今回撮影したいのはアメマスの姿だけでなく、繁殖の様子も記録したいと思っています。現在も撮影は続いています。果たして、アメマスが命をつなぐ瞬間を記録することはできるでしょうか。

PROFILE

六田晴洋 ろくたはるひろ

1986年生まれ。
2021年に白糠町へ移住。
大学卒業後、フリーランスのカメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。
<https://rokutaharuhiro.com>



川の淵に集まる小魚の群れ



濁りの奥から姿を現したアメマス